



## 2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月10日

上場会社名 中外鉱業株式会社

上場取引所 東

コード番号 1491 URL <http://www.chugaikogyo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西元 丈夫

問合せ先責任者 (役職名) IR センター室長 (氏名) 桜庭 勲

TEL 03-3201-1541

四半期報告書提出予定日 2023年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	64,332	86.8	632	52.3	572	61.1	365	6.4
2022年3月期第3四半期	34,443	16.7	415	267.3	355	386.3	343	523.6

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 365百万円 (6.4%) 2022年3月期第3四半期 343百万円 (523.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	1.27	
2022年3月期第3四半期	1.19	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	10,256	7,144	69.7	24.79
2022年3月期	9,833	7,067	71.9	24.52

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 7,144百万円 2022年3月期 7,067百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		1.00	1.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	78,000	51.2	660	12.6	580	13.9	370	32.2	1.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	289,747,982 株	2022年3月期	289,747,982 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	1,533,488 株	2022年3月期	1,532,428 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	288,215,087 株	2022年3月期3Q	288,850,192 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(会計方針の変更) .....	7
(追加情報) .....	7
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和等もあり、社会・経済活動の正常化に向けた動きが見られたものの、急速な円安進行に伴う物価高騰に加え、半導体をはじめとした部材・原材料等の供給不足、ウクライナ情勢長期化の影響等、先行き不透明な状況が続いております。

このような経済状況のもと、当社グループ(当社及び連結子会社)は、貴金属市況において、金価格は、米国のインフレ沈静化による利上げ鈍化観測や新型コロナウイルス感染症、地政学リスク等の影響から高値圏を維持しており、総じて上昇基調で推移いたしました。業績については金・白金族の集荷量が当初見込みを上回ったことや宝飾品の販売が好調であったことから堅調に推移いたしました。不動産市況においては、住宅ローン減税や低金利の継続等、住宅購買環境は良好であるものの、地価高止まりや建築資材の高騰等、事業環境は厳しい状況の下推移いたしました。こうした中、都内収益物件の販売を行ったものの業績は低調に推移いたしました。機械市況においては、電気自動車や旺盛な半導体関連の受注継続等から内外需ともに回復基調であったことから、業績は改善傾向で推移いたしました。コンテンツ事業においては、中国ロックダウンの影響により一部商品に納期遅延が生じたものの、人気タイトルのグッズ販売が好調であったことから、業績は堅調に推移いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は64,332,004千円(前年同四半期34,443,101千円86.8%増)、営業損益は632,276千円の利益(前年同四半期415,317千円の利益)、経常損益は572,134千円の利益(前年同四半期355,973千円の利益)、親会社株主に帰属する四半期純損益は365,281千円の利益(前年同四半期343,675千円の利益)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

貴金属事業におきましては、売上高は61,025,131千円(前年同四半期30,856,149千円)、営業損益は689,107千円の利益(前年同四半期295,029千円の利益)となりました。

不動産事業におきましては、売上高は342,985千円(前年同四半期589,416千円)、営業損益は8,424千円の損失(前年同四半期35,341千円の利益)となりました。

機械事業におきましては、売上高は756,917千円(前年同四半期676,965千円)、営業損益は26,455千円の利益(前年同四半期14,061千円の利益)となりました。

コンテンツ事業におきましては、売上高は2,162,505千円(前年同四半期2,285,981千円)、営業損益は258,268千円の利益(前年同四半期374,762千円の利益)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期末における総資産の残高は、前連結会計年度末より423,107千円増加し、10,256,481千円となりました。

流動資産の残高は、前連結会計年度末より479,912千円増加し、7,811,404千円となりました。

増加の主なものは、売掛金の増加(210,671千円から628,239千円へ417,567千円の増加)、商品及び製品の増加(1,808,813千円から2,207,779千円へ398,965千円の増加)及び販売用不動産の増加(405,807千円の増加)であります。

減少の主なものは、現金及び預金の減少(4,095,519千円から3,338,894千円へ756,624千円の減少)及び原料及び貯蔵品の減少(632,262千円から329,741千円へ302,521千円の減少)であります。

固定資産の残高は、前連結会計年度末より56,804千円減少し、2,445,077千円となりました。

流動負債の残高は、前連結会計年度末より298,759千円増加し、2,721,767千円となりました。

増加の主なものは短期借入金の増加(700,000千円から1,569,920千円へ869,920千円の増加)であります。

減少の主なものは前受金の減少(1,089,731千円から413,684千円へ676,047千円の減少)であります。

固定負債の残高は、前連結会計年度末より47,314千円増加し、390,448千円となりました。

純資産の残高は、前連結会計年度末より77,034千円増加し、7,144,264千円となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年11月11日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。今後の業績動向を踏まえ、業績予想の修正が必要となった場合は速やかに公表いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,095,519	3,338,894
売掛金	210,671	628,239
商品及び製品	1,808,813	2,207,779
仕掛品	479,572	639,512
原材料及び貯蔵品	632,262	329,741
販売用不動産	—	405,807
仕掛不動産	54,099	54,166
預け金	194	194
その他	90,426	247,136
貸倒引当金	△40,068	△40,068
流動資産合計	7,331,491	7,811,404
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,165,708	997,528
減価償却累計額	△706,857	△740,090
建物及び構築物 (純額)	458,851	257,437
機械装置及び運搬具	526,661	551,775
減価償却累計額	△477,556	△486,342
機械装置及び運搬具 (純額)	49,104	65,433
土地	1,472,391	1,472,391
その他	149,284	151,910
減価償却累計額	△118,502	△123,451
その他 (純額)	30,781	28,459
建設仮勘定	24,500	23,521
有形固定資産合計	2,035,628	1,847,242
無形固定資産		
コンテンツ資産	—	7,200
その他	18,586	15,788
無形固定資産合計	18,586	22,988
投資その他の資産		
投資有価証券	100,071	110,071
出資金	120,585	120,615
敷金及び保証金	123,846	139,636
繰延税金資産	98,100	199,459
その他	5,063	5,063
投資その他の資産合計	447,666	574,845
固定資産合計	2,501,881	2,445,077
資産合計	9,833,373	10,256,481

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	349,046	457,375
短期借入金	700,000	1,569,920
関係会社短期借入金	50,000	50,000
1年内返済予定の長期借入金	64,286	66,406
未払金	30,069	26,431
未払法人税等	27,133	4,246
前受金	1,089,731	413,684
契約負債	2,986	392
その他	109,754	133,311
流動負債合計	2,423,008	2,721,767
固定負債		
長期借入金	106,129	59,826
金属鋁業等鋁害防止引当金	3,953	3,953
解体費用引当金	—	100,000
預り敷金保証金	9,495	6,815
資産除去債務	207,455	207,455
その他	16,102	12,399
固定負債合計	343,134	390,448
負債合計	2,766,143	3,112,216
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,248,926	100,000
資本剰余金	—	6,148,926
利益剰余金	899,692	976,759
自己株式	△81,389	△81,420
株主資本合計	7,067,230	7,144,264
純資産合計	7,067,230	7,144,264
負債純資産合計	9,833,373	10,256,481

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	34,443,101	64,332,004
売上原価	32,742,693	62,039,012
売上総利益	1,700,407	2,292,992
販売費及び一般管理費	1,285,090	1,660,716
営業利益	415,317	632,276
営業外収益		
受取利息及び配当金	14	15
国庫補助金収入	8,947	8,703
保険金収入	343	—
その他	3,103	3,194
営業外収益合計	12,408	11,913
営業外費用		
支払利息	6,100	7,571
休山管理費	56,472	59,991
その他	9,179	4,492
営業外費用合計	71,752	72,055
経常利益	355,973	572,134
特別利益		
固定資産売却益	593	444
特別利益合計	593	444
特別損失		
解体費用引当金繰入額	—	100,000
固定資産除却損	4,451	—
減損損失	—	198,402
特別損失合計	4,451	298,402
税金等調整前四半期純利益	352,115	274,176
法人税、住民税及び事業税	10,253	10,253
法人税等調整額	△1,813	△101,358
法人税等合計	8,440	△91,105
四半期純利益	343,675	365,281
親会社株主に帰属する四半期純利益	343,675	365,281

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	343,675	365,281
四半期包括利益	343,675	365,281
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	343,675	365,281



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(株主資本の金額の著しい変動)

2022年6月29日開催の第130回定時株主総会決議により、2022年8月15日付で資本金を減少させ、その全額をその他資本剰余金へ振り替えております。この結果、資本金が6,148,926,581円減少し、第2四半期連結会計期間末において資本金が100,000,000円、その他資本剰余金が6,148,926,581円となっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2
	貴金属事業	不動産事業	機械事業	コンテンツ 事業			
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	30,856,149	578,368	676,012	2,285,981	46,589	34,443,101	—
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	11,047	952	—	—	12,000	△12,000
計	30,856,149	589,416	676,965	2,285,981	46,589	34,455,101	△12,000
セグメント利益又はセグメント損失(△)	295,029	35,341	14,061	374,762	△15,790	703,403	△288,085

	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高	
(1) 外部顧客への売上高	34,443,101
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—
計	34,443,101
セグメント利益又はセグメント損失(△)	415,317

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、投資事業、太陽光発電による売電収入、不動産賃貸収入及びインターネットカフェ事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△288,085千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△288,085千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自2022年4月1日 至2022年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2
	貴金属事業	不動産事業	機械事業	コンテンツ 事業			
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	61,025,131	331,938	756,147	2,162,505	56,282	64,332,004	—
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	11,047	770	—	—	11,817	△11,817
計	61,025,131	342,985	756,917	2,162,505	56,282	64,343,822	△11,817
セグメント利益又はセグメント損失 (△)	689,107	△8,424	26,455	258,268	△8,164	957,241	△324,965

	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高	
(1) 外部顧客への売上高	64,332,004
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—
計	64,332,004
セグメント利益又はセグメント損失 (△)	632,276

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、投資事業、太陽光発電による売電収入、不動産賃貸収入及びインターネットカフェ事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△324,965千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△324,965千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「不動産事業」セグメントにおいて、建物及び構築物の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において198,402千円であります。